

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100021		
法人名	社会福祉法人 御葉園		
事業所名	グループホーム 桜の里 東の家		
所在地	熊本県球磨郡水上村岩野2658-1		
自己評価作成日	平成27年3月4日	評価結果市町村受理日	平成27年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成27年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域性から農業に従事されていた方が多い為、菜園にて一緒に野菜の世話や収穫をして頂いたり、世話の仕方や害虫の駆除法など入居者に尋ねながら本人主体で活動する事により、満足感や達成感を持っていただける様にしている。また、生活の中でも家事など(洗濯たたみや野菜の下ごしらえ、食事の準備等)出来る事は行って頂き、それぞれが役割を持って生活できるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホーム「桜の里」の敷地内に、グループホーム「東の家」と「西の家」が玄関を向かい合わせにして繋がって建てられ、中の造りも全く同じである。近くに小学校・保育園・体育館、そして利用者のかかりつけ医である古城クリニックがあり、小学校からは、運動会・学習発表会等の案内を受け、交流が図られている。周辺は、四季の移ろいを感じられる豊かな自然に恵まれ、静かな生活が営まれている。利用者とのレクリエーションや外出等、共に楽しみたいとの意欲ある職員が多いが、恒常的に職員数が少なく、実践しにくい状況にあり、その分おやつ作りも含めて食事作りに力を入れており、「おいしい」といって貰えるように工夫して利用者の笑顔を引き出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、職員全体で共有し、実践につなげるように努めている。また、理念を掲示し、利用者家族にも当事業所の介護に対する方針が伝わるようにしている。	理念の「ゆったりした時間の中で自分らしく、楽しみながらの生活」は、ゆったりとした時間は流れているが、恒常的に職員数不足の為、利用者が「楽しみながらの生活」は得られにくい状況にある。もう一つの理念である「自分でできる事をやれる喜び」については、介護度の低い利用者から、「何かする事はないか」の申し出で、食事の配膳・下膳等を積極的に手伝っており、「できることの喜び」を職員と共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体として、地域の一員となれるよう地域の祭りや小学校、保育園等の行事に積極的に参加するとともに、園児や生徒にボランティアにきてもらなど日常的に交流している。	施設のすぐ前に小学校があり、運動会や学習発表会の案内を受け、利用者と共に出かけている。又、中学校の体験学習の受け入れや、傾聴ボランティアの訪問があり、施設への理解に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて生かしていくまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日中夜間のサービスやその他レクリエーションを含めたサービス提供状況、利用者の状態報告を行っており、そこで出された各委員からの意見を受け、サービス向上にいかしている。	運営推進委員は、利用者・家族代表・地域4地区の各老人会長・包括・管轄エリアの4役場職員で構成されている。「東の家」・「西の家」の管理者が、それぞれサービス提供状況と入居者状況を報告している。委員からは、「認知症サポーター研修」を施設で実施したらどうかとか、「看取りの研修」をしているか等具体的な提案や、意見が出されており、現状に即した質疑応答がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者も運営推進会議のメンバーになってもらっており、また日頃から連絡も密に連携を行って協働関係は築けている。	入退所の相談や事故報告等必要な事は、限られた職員数であっても出向いており、信頼関係の構築に努めている。運営推進会議録は会議日、前回の会議録を手渡ししており、施設の実情やサービスの取り組みへの理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人の合同研修等で、身体拘束について全職員が学び理解するよう努めている。玄関の施錠に関しては、夜間など職員が1人になる場合には施錠する事がある。	法人の合同研修で、どんな事が身体拘束になるかや拘束による弊害を学んでおり、理解は出来ているが、常駐できる職員体制では、二人同時の立ち上がりや他利用者の動きがあった場合、待ってもらふ事になり、常に気配りが必要で、一対一での落ち着いたケアが出来にくい状況にある。又、帰宅願望の対策として、玄関にチャイムを取り付けているが、外に出る利用者は引き止めず、ついて行き、落ち着かれるまで見守りする対応が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人での合同の研修等にて学ぶ機会をもつ職員間にて注意喚起するなど防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解という点では、まだ全職員が理解するまでは至っておらず、今後さらに努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語は避け、ご家族の方が納得されるまで十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望は随時直接聞き取りをしている。ご家族に対しては、家族会開催の際や来園時及び電話連絡を行った際に意見や要望等ないか確認して、運営に反映させるよう努めている。	家族は、法人が開催する年2回の「家族会」に任意で参加している。法人内の草取り・清掃活動・じゃがいも植え(収穫)等の奉仕活動が行われた後、利用者と同じ食事がふるまわれ、親睦を図る機会としている。又、遠方の家族に対しては、電話での近況報告を行い、ケアプラン作成についての意見や要望を聞いたり、盆・正月には帰省を促す事で、利用者との繋がりが薄れないような支援に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員がそろう事は難しいが職員間での意見交換ができるような体制をとっており、意見があった場合、法人の各会議に意見として提出し対応している。	管理者は、今の職員数6名ではゆとりがなく、職員の時間外労働によって助けられている事を十分くみ取っており、全職員が生き生きと働いていないと認識している。職員は、利用者とのかわりの時間が少ない分、おいしい食事の提供や、入浴時のマンツーマンでの会話に力を入れて、利用者との密な交流を図る努力が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務評価については、賞与等に反映すべく勤務査定調書を策定中である。職員のモチベーションの高揚及び働きやすい職場環境づくりについては、職員会議等でテーマに掲げ取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の業務能力に応じた各種研修に参加させるとともに、施設内でも実際の業務の向上に繋がる研修を、年次計画的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の市町村内の同業者で組織する任意団体に所属し、勉強会や研究大会等開催しながら、全体的なサービスの質の向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	重度の認知症の方が多く、時に本人の要望の確認が困難な時があるが、入居者の方と関わる時間を出来るだけ設け信頼関係を築ける様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入所後しばらくは状態報告を行い、その際に要望等を尋ねながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時、入所直後は特に必要とされるサービスを本人や家族に確認しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	若い職員がいる為、昔ながらの生活の知恵を教えてもらったり、一緒に調理や食器の片付けを行ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者も含めて談笑したり、本人について些細な事でも伝える様にしている。また急な状態の変化等あれば逐一報告を行うなど、本人を家族とともに支えていく関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との交流は、併設のデイサービスに知人が来られた時の面会や地域の行事や祭りに積極的に参加するようにしている。しかし以前のようにドライブに行く事は出来ていない。	併設のデイサービスを利用していた入居者が、ホームに移住した後、デイサービスを訪問し、馴染みの人との交流ができるよう支援している。又、社協の協力で、地区の「ふれあい会」に参加したり、馴染みの美容室を利用する人もおり、地域との関係が途切れないよう心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握は出来ており、職員が間に入る事で利用者同士が関わり合い、一部ではお世話される事もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方でも病院等への訪問を行ったり、状態の確認や本人・家族からの相談等には入居時と変わらぬ対応が出来る様に心がけ相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にはもちろん確認を行っているが、入所後は不定期ではあるが希望や意見を聞くようにしている。	「西の家」では、帰宅願望の人が数名あり、家族に「帰りたい」思いを伝えたり、職員もその思いに応じて外に出られるのに付き合っている。手芸がしたい、買い物に行きたくて欲しい、何か手伝う事はないか等の思いには即対応し、利用者の満足に繋げている。意思疎通が出来にくい利用者には顔の表情や仕草で判断しながら、しっかり話を聞くように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に調査をし把握に努めているが、入所後に不明な点があればその都度家族や関係各所に問い合わせながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の状態把握は出来ている。それぞれの能力ややる気に応じて日常生活の中で出来る事(調理の手伝いや洗濯物たたみ等)をして能力の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一部の方を除き重度の認知症の方が多い為、本人の意見や意思の確認が出来ていない部分があるが、その場合家族への確認や本人の希望しているであろう事を推測し介護計画を作成している。	ケアプランは、職員と週一回訪れる訪問看護師の意見や、面会や電話で家族の意見や要望を基に計画作成担当者が作成している。作成に当たり、一番重要視しているのは、残された機能の維持継続である。投薬の調整が難しい利用者は、定期受診で医師の判断を仰ぎ、ケアプランに反映させ、経過観察と見守りの対応がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入を行いながら、気づいた点があればその都度勤務の職員で検討や見直しを行い変更点は申し送りをするなど介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりを支える為の事業所の多機能化という点では、可能な限り取り組もうと考えているが、まだ十分ではないと認識している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は出来ているが、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるような活用までは出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人系列病院のかかりつけの方が多く、受診時には付き添いし医師への情報提供をしている。またその他の病院へ受診される際は状況提供表や事前連絡にて情報提供している。	利用者18名の内、17名が法人系の医療機関をかかりつけ医とし、1名が他の医院を主治医としている。法人系の医院は施設のすぐ近くにあり、職員が定期受診に同行し、薬は隣の薬局から届けられる仕組みがある。家族への受診報告は、面会時や年4回発行の法人の広報誌と共に近況報告も兼ねて郵送し、了承を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時には入居者の状況を伝え情報の共有に努めている。またその際に受診の必要性の有無も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院を訪問し、病院関係者と経過の確認や情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに対する家族の意思確認を行い、実際に重度化した場合はあらためて今後についての意思確認を行うようにしている。	入居時に、法人が作成している「桜の里終末期看取りについて」という事前確認書を示し、家族に説明すると共に簡単なアンケートを取り、終末期についての意識付が行われている。運営推進会議で委員の、「看取りに関する研修は実施しているのか」との質問には、「現在、看取り対応の利用者はおらず、その時点で対応を考える」と回答されている。家族の希望に沿って、可能な限りの支援を行い、重度化した場合は改めて話し合いを重ねる方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人での研修や消防署での救急救命講習等への参加を行っている。また緊急時のマニュアル等も作成し、急変時や事故発生時に適切な対応が出来る様にしているが、全職員が実践力を身に付けるまでには至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難場所の把握や年2回の避難訓練を行い、緊急時に備えて全職員が避難方法を身につける様に努めているが、地域との協力関係を築くまでには至っていない。	年2回、消防署協力のもと、夜間想定での避難訓練を実施している。地域の避難所は、施設の前の村立体育館であるが、利用者の介護度や身体能力等を考慮した上で、法人の協力もあり、同敷地内の特養までの避難訓練が行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに注意しながら敬意をはらった対応を心がけている。	居室に入る時は、必ずノックする事や、個人的な内容を伝えたり、話し合う場合は個別に居室で話す事を心掛けている。意思疎通が困難な利用者については、表情や仕草等で見極め、ゆっくり傾聴しながらの対応が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度の認知症の方もおられるが、本人の思いや希望の把握が難しい事もある為、そのような場合は職員が推測し本人が、自己主張できるよう対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活スタイルに出来るだけ沿えるようにし、この時間にこれをしましようといった事はしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品やくしなど本人が以前から使用されていたものを持ち込み使用されている。散髪に関しては、月2回ボランティアで理美容があるので家族や本人の希望時に散髪して頂くよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備やつぎ分けなど出来ることは一緒にして頂いている。また苦手なものに関しては代替え品にて対応している。	メニューは、特養の管理栄養士が週単位で作成。それを基に食材を、決められた納入業者にファックスで一括注文し、当番職員が調理している。肉や魚が苦手な人には代替え品を準備したり、野菜嫌いの人には、野菜ジュースで対応する等柔軟な対応がとられていた。又、花見シーズンには市房ダムで、桜の花の下でバーベキュー大会が開かれ、職員と共に外での食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量をチェックし、その日の状態を把握しながら、一人ひとりの習慣に応じて声掛け行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、一人ひとりの口腔状態を把握し、本人の力に応じたケアに心がけている。夜間は義歯を預かり、洗浄剤を使用し保管している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、自立されている利用者も半分ほどおられ、一人ひとりの排泄パターン、習慣を活かして、自立に向けた支援をしている。	食事摂取量と、排泄パターンを記入した一覧表を活用して、定期的なトイレ誘導を行い、失敗を防ぐ努力が見られた。夜間は防水マットで対応したり、声掛け誘導でトイレでの排泄可能の人もあり、失敗による不快感解消に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに応じて、水分補給の声掛け行い、排泄チェックを行っている。下剤を服用される方に関しては便の性状や回数を見て服薬量の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めてあるが時間帯は決めておらず、曜日が違って希望があれば入浴行い、本人が入りたい時間に入浴できるように対応している。	浴室前に、大型の作り付け収納ボックスがあり、利用者一人一人の洗面器・石鹸・シャンプー等お風呂グッズが備えられている。上段には個別の紙おむつも置かれ、入浴後、すぐ使用できる工夫がある。入浴は週3回だが、毎日入浴したい人の希望も受けいれられている。一日4～5人の入浴者があり、そのほとんどが午前中に集中し、職員は食事作りもあり、多忙である。その日の入浴者全員が終ったら、その都度、排水口の蓋も外して清掃し、換気と共に清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、一人ひとりの生活習慣に応じて、休息したり、夕食後はそれぞれの就寝時間に合わせ居室誘導及びイブニングケアの介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更時には状態の把握とホワイトボードを利用した申し送りの徹底を行っており、訪問看護時に看護師に状態や症状を伝え相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや農作業等各々の得意な事が生かせるような生活を提供している。気分転換で、施設の外周を散歩に出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて、随時施設内の散歩を行っている。可能な方は、家族と一諸に自宅に行ったり、外出出来るように支援している。	職員不足と大型車がないことで、遠出の外出ができにく状況にあり、外出の機会が得られるよう、家族に協力を求めている。日常的には近隣の散歩で春の桜、秋の彼岸花等を楽しんでいる。又、遠方の家族から、利用者の日用品の買い物依頼を受け、行きたい利用者も同行する等、気分転換が図られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には本人が管理出来るかも含め家族へ相談の上、所持されている。本人からの依頼で、買い物も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった際には職員が電話をかけ、本人と代わりやりとりができるようにしている。手紙も書かれる利用者もおられ、やり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは施設内に4か所あり利用者が使いやすい所を利用されている。食堂は、対面キッチンで、利用者と話ができたり、見守りができるよう工夫してある。季節の花を花瓶に飾ったり壁を利用して季節ごとにかざりをつけたり工夫している。	「東の家」・「西の家」両棟は、玄関が向かいあった同じ作りの建物である。玄関には、カラフルなペーパーフラワーが置かれ、壁には「桜まつり」のポスターと桜の花の貼り絵が展示されていた。「東の家」のリビングには、利用者の暮らしぶりを撮った写真集があり、家族が自由に持ち帰られるサービスが提供されていた。リビングにはテーブルが二台、その奥に高床式の畳の間があり、コタツが置かれている。オープンキッチンからは、利用者全員の様子が見られる造りとなっており、調理しながらの見守りで利用者に対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の後に食堂で、しばらく話されたり、歌を歌われたりして、それぞれ過ごされている。冬場は、廊下の日当たりのいい場所で、椅子に座り過ごされる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、それぞれ在宅で使われていた寝具やタンスを家族と相談して持ってきて頂き、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	出窓のある居室は広く、空気清浄器・クーラー・ベッドは備え付け。寝具・整理ダンス・小さなテーブル等が持ち込まれ、どの部屋もその人らしい雰囲気落ち着いた居室作りとなっている。作り付け収納ボックスは、利用者の私物が職員の手で整然と片付けられスッキリしていた。ベッドは、低い位置にセットされ、寝起きがしやすい工夫が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を行い、建物内は安全に移動できるようにしている。洗濯干しやたたみ方や食器拭きなど出来る事は、手伝ってもらい自立した生活が送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100021		
法人名	社会福祉法人 御葉園		
事業所名	グループホーム 桜の里 西の家		
所在地	熊本県球磨郡水上村岩野2658-1		
自己評価作成日	平成27年3月4日	評価結果市町村受理日	平成27年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成27年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域性から農業に従事されていた方が多い為、菜園にて一緒に野菜の世話をしたり収穫をして頂いたり、世話の仕方や害虫の駆除法など入居者に尋ねながら本人主体で活動する事により、満足感や達成感を持っていただける様にしている。また、生活の中でも家事など(洗濯たたみや野菜の下ごしらえ、食事の準備等)出来る事は行って頂き、それぞれが役割を持って生活できるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、職員全体で共有し、実践につなげるように努めている。また、理念を掲示し、利用者家族にも当事業所の介護に対する方針が伝わるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体として、地域の一員となれるよう地域の祭りや小学校、保育園等の行事に積極的に参加するとともに、園児や生徒にボランティアにきてもらなど日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて生かしていくまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日中夜間のサービスやその他レクリエーションを含めたサービス提供状況、利用者の状態報告を行っており、そこで出された各委員からの意見を受け、サービス向上にいかしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者も運営推進会議のメンバーになってもらっており、また日頃から連絡も密に連携を行って協関係は築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人の合同研修等で、身体拘束について全職員が学び理解するよう努めている。玄関の施錠に関しては、夜間など職員が1人になる場合には施錠する事がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人での合同の研修等にて学ぶ機会をもつ職員間にて注意喚起するなど防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解という点では、まだ全職員が理解するまではには至っておらず、今後さらに努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語は避け、ご家族の方が納得されるまで十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望は随時直接聞き取りをしている。ご家族に対しては、家族会開催の際や来園時及び電話連絡を行った際に意見や要望等ないか確認して、運営に反映させるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員がそろう事は難しいが職員間での意見交換ができるような体制をとっており、意見があった場合、法人の各会議に意見として提出し対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務評価については、賞与等に反映すべく勤務査定調書を策定中である。職員のモチベーションの高揚及び働きやすい職場環境づくりについては、職員会議等でテーマに掲げ取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の業務能力に応じた各種研修に参加させるとともに、施設内でも実際の業務の向上に繋がる研修を、年次計画的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の市町村内の同業者で組織する任意団体に所属し、勉強会や研究大会等開催しながら、全体的なサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自分の意思を表せる方も多く、その都度訴えを傾聴し本人の要望の確認と不安の解消に努めている。短期記憶障害が強い方も数名いるが顔見知りの関係は築けてきている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入所後しばらくは状態報告を行い、その際に要望等を尋ねながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時、入所直後は特に必要とされるサービスを本人や家族に確認しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	菜園での野菜作り等入居者と協力して行い、入居者と交流できる時間を増やし、出来るだけ密接な関係が築ける様にして暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者も含めて談笑したり、本人について些細な事でも伝える様にしている。また急な状態の変化等あれば逐一報告を行うなど、本人を家族とともに支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との交流は、併設のデイサービスに知人が来られた時の面会や地域の行事や祭りに積極的に参加するようにしている。しかし以前のようにドライブに行く事は出来ていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握は出来ており、職員が間に入る事で利用者同士が関わり合い、一部ではお世話される事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方でも病院等への訪問を行った り、状態の確認や本人・家族からの相談等 には入居時と変わらぬ対応が出来る様に心 がけ相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にはもちろん確認を行っているが、 入所後は不定期ではあるが希望や意見を 聞くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に調査をし把握に努めているが、入 所後に不明な点があればその都度家族や 関係各所に問い合わせながら把握に努めて いる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の状態把握は出来ている。それぞ れ的能力ややる気に応じて日常生活の中 で出来る事(調理の手伝いや洗濯物たたみ 等)をして能力の維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思表示できる方が多く、本人の意見や 意思の確認が出来ている部分は家族や職 員へ本人の希望している事を伝え、実 現可能な介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入を行いながら、気づいた 点があればその都度勤務の職員で検討 や見直しを行い変更点は申し送りをする など介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりを支える為の事業所の 多機能化という点では、可能な限り取 り組もうと考えているが、まだ十分で はないと認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は出来ているが、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるような活用までは出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人系列病院のかかりつけの方が多く、受診時には付き添いし医師への情報提供をしている。またその他の病院へ受診される際は状況提供表や事前連絡にて情報提供している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時には入居者の状況を伝え情報の共有に努めている。またその際に受診の必要性の有無も検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院を訪問し、病院関係者と経過の確認や情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに対する家族の意思確認を行い、実際に重度化した場合はあらためて今後についての意思確認を行うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人での研修や消防署での救急救命講習等への参加を行っている。また緊急時のマニュアル等も作成し、急変時や事故発生時に適切な対応が出来る様にしているが、全職員が実践力を身に付けるまでには至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難場所の把握や年2回の避難訓練を行い、緊急時に備えて全職員が避難方法を身に付ける様に努めているが、地域との協力関係を築くまでには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに注意しながら敬意をはらった対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できる方が多く、その時の思いや行動に随時対応している。徘徊される方も多く場合によっては対応しきれない事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活スタイルに出来るだけ沿えるようにし、この時間にこれをしましようといった事はしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品やくしなど本人が以前から使用されていたものを持ち込み使用されている。散髪に関しては、月2回ボランティアで理美容があるので家族や本人の希望時に散髪して頂くよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備やつぎ分けなど出来ることは一緒にして頂いている。咀嚼力の低い方でも食材に応じて普通の方と同じように提供し、見た目にも配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量をチェックし、その日の状態を把握しながら、一人ひとりの習慣に応じて声掛け行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、一人ひとりの口腔状態を把握し、本人の力に応じたケアに心がけている。夜間は義歯を預かり、洗浄剤を使用し保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、自立されている利用者も半分ほどおられ、一人ひとりの排泄パターン、習慣を活かして、自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに応じて、水分補給の声掛けを行い、排泄チェックを行っている。下剤を服用される方に関しては便の性状や回数を見て服薬量の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めてあるが時間帯は決めておらず、曜日が違って希望があれば入浴を行い、本人が入りたい時間に入浴できるように対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、一人ひとりの生活習慣に応じて、休息したり、夕食後はそれぞれの就寝時間に合わせ居室誘導及びイブニングケアの介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更時には状態の把握とホワイトボードを利用した申し送りの徹底を行っており、訪問看護時に看護師に状態や症状を伝え相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや農作業等各々の得意な事が生かせるような生活を提供している。気分転換で、施設の外周を散歩に出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて、随時施設内の散歩を行っている。可能な方は、家族と一諸に自宅に行ったり、外出出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には本人が管理出来るかも含め家族へ相談の上、所持されている。本人からの依頼で、買い物も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった際には職員が電話をかけ、本人と代わりやりとりが出来る様にしている。手紙も書かれる利用者もおられ、やり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは施設内に4か所あり利用者が使いやすい所を利用されている。食堂は、対面キッチンで、利用者と話しができた、見守りができるよう工夫してある。季節の花を花瓶に飾ったり壁を利用して季節ごとにかざりをつけたり工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の後に食堂で、しばらく話しされたり、歌を歌われたりして、それぞれ過ごされている。冬場は、廊下の日当たりのいい場所で、椅子に座り過ごされる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、それぞれ在宅で使われていた寝具やタンスを家族と相談して持ってきて頂き、本人が居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を行い、建物内は安全に移動できるようにしている。洗濯干しやたたみ方や食器拭きなど出来る事は、手伝ってもらい自立した生活が送れるよう支援している。		